



「躡」と「教育」

「躡」という字は、身を美しくすると書きます。「あいさつをきちんとする」「嘘をつかない」「ものを丁寧に使う」「人のものを盗まない」「食べ物を残さずきれいに食べる」「脱いだ履物をそろえる」など、「躡」は子どもが人として社会で生きていく上でのルールやマナーを身に付けさせることです。「躡」という文字は、日本で作られた文字（国字）だそうですが、きちんとしつけられた人は、所作だけではなく考え方も美しいと思います。

一方「教育」とは、知識や技術を教え、人の能力を開発して望ましい姿に育てる活動の事を言います。「学校教育」や「社会教育」など、対象や目的によって変わることから、その意味は広くとらえられます。

ところで、この「躡」と「教育」は、似ているようで違います。「躡」は、その結果として同じような姿に近づく事になりますが、「教育」では、個性を伸ばすと様々な将来に行きつくように、必ずしも同じ姿にはなりません。

学校教育の場である学校は、もちろん「教育」をしています。また、学校が子どもたちの人格形成や集団育成の場である事から「躡」に近い「教育」もしています。生活指導として、あいさつなどの「基本的な生活習慣」や「公正・公平な態度」などを教えていますし、道徳の授業にもそうした事を学ぶ学習内容があります。

しかし、家庭での「躡」が不十分だと、学校の「教育」の効果は半減します。子どもの周りの大人が同じ価値観で導かないと、子どもはすぐに易い方に流されていくからです。たとえば、学校でいくら「時間を守りなさい」と指導しても、家庭で時間の過ごし方が

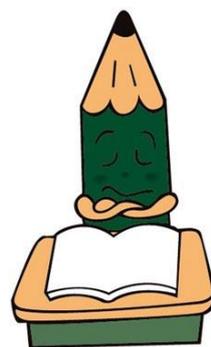


ルーズであれば子どもはそれが基本になります。学校では集団規範や礼儀作法について、これからも指導を続けていきますが、ベースとなる家庭での「躰」があってこそその「教育」です。家庭と学校とが、子どもの未来について同じ方向を見ながら、価値観を共有して育てていく事ができれば良いと思っています。

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果

今年度の本校の全国学力・学習状況調査の結果概要を公表します。詳しい結果については、後日学校ホームページ上で公開します。

学習面では、平均正答率において、国語A・B、算数A・Bの全てにおいて全国平均を5ポイント以上下回る結果となりました。しかし、無回答率は、算数A以外は全国平均より低く、本校の特徴でもある「問題に対して粘り強く向き合う児童の姿」が見て取れます。



質問紙からは、自分で計画を立てて勉強している児童や、学校の授業の復習をしている児童の割合が全国平均より低い一方、テレビゲームや携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使って、ゲームやメール・インターネットをする時間や、テレビやビデオを視聴する時間が全国平均より長い児童の割合が多く、放課後の時間の使い方に課題が見られました。

また、多くの質問項目において、「当てはまる」「やや当てはまる」を合わせた肯定的回答のうち、「当てはまる」と答える積極的な回答の割合が、全国平均より低い結果となりました。学習だけでなく、様々な物事に対して積極的に考え、行動していく姿勢を身に付けさせることも課題の一つとして挙げられます。

結果を受けて、学校では、「あさがくタイム」「ひるがくタイム」における継続的な指導を続けつつ、家庭学習を計画的にできるよう啓発を行っていきます。また、日々の授業の中で「めあて」「ふりかえり」をはっきりさせた学習を行い、児童が自分の意見を論理的に説明しながら意見を交流し、相互に深めていけるような授業造りをしていきたいと考えています。